

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

世界のみならず共に生きるために、自分ができること

【実践者】

氏名	星 菜々	学校名	福島県会津若松市立一箕小学校
担当教科等	全教科	対象学年(人数)	6年4組(27名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年10月(4時間)		

【実践概要】

1. 単元(活動)名: 世界のみならず共に生きる		
<p>2. 単元目標</p> <p>単元目標: ザンビアの人々の生活、価値観、文化などを伝えることを通して、日本と他国との共通点や相違点に気付き、共に未来を歩む世界の人々のために今の自分たちに何ができるか考えることができる。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標:</p> <p>他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。</p> <p>【道徳科 第2内容 C 主として集団や社会との関わりに関すること[国際理解、国際親善] (第5学年及び第6学年)】</p>		
3. 単元の評価規準	<p>①知識及び技能</p> <p>②思考力、判断力、表現力等</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>日本とザンビアの共通点や相違点に気付き、多様な文化や生活、価値観があることを理解することができる。</p> <p>ザンビアの現状から、世界のために今自分は何ができるのかを考えることができる。</p> <p>ザンビアについて知り、世界の国々への興味・関心をもつことができる。</p>
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>児童にとって、他国を身近に感じることは難しい。しかし、現在世界で起きている、環境や食料、戦争などの問題は、どれも一地域や一国内で解決できる問題ではない。これからの未来の担い手として、世界情勢に目を向けつつ、日本人としての自覚をもち、国際親善に努めようとする意欲を高めることができるようにしたい。</p>	

【単元の意義】

他国の現状や課題を遠い国のことという思いで済ませるのではなく、ザンビアの現状を伝えることで、自分たちとの共通点や相違点を知り、自分たちとの関わりに気付かせたい。そして、他国に差別や偏見をもたず、同情という思いではなく、共に未来をつくっていく仲間として、世界のために自分たちができることを考えることが本単元の意義である。

【児童／生徒観】

第1学期に行った道徳科「幸せをいのって織るじゅうたん(国際理解、国際親善)」の学習を通して、児童は、「他国のことをもっと知りたい。」「日本との違いや共通点を見つけたい。」という思いをもった。しかし、他国に触れる機会が実際には少ないため、「どう行動に移せばよいか分からない。」「遠い国のことであるな。」との声も聞かれた。テレビで見たりネットで調べたりした表面上の一部分を知ることではできても、他国の現状や自分たちとの関わりを理解することは実際には難しい。そこで、ザンビアの現状を知ることから他国へ目を向けたり、自分たちとの関わりを理解したりした上で、世界のために自分たちができることを考えさせたい。

【教材観】

本単元は、教科等横断的に、ザンビアでの写真や動画、購入した物を活用して、ザンビアの人々の生活、価値観、文化などに触れさせることで、ザンビアの良さや課題に気付かせる。さらに、ザンビアの学習を通して世界のために自分ができることを考えるという内容である。本時では、日本とザンビアの子どもたちの学校と家庭での様子の「ちがいのちがいの」の活動を通して、異文化としてあってよい違い、ザンビアの課題としてあってはいけない違い等について考えさせる内容である。本時までの学習を振り返ったり、ザンビアの写真と自分たちの生活の様子を比較したりしながら、多面的・多角的な視点から考えを伝え合い、日本とザンビアの共通点や相違点に気づかせ、世界には多様な文化や生活、価値観があることを理解させたい。

【指導観】

教科等横断的にザンビアという国についての現状を知ること、ザンビアという国について表面上で理解するのではなく、ザンビアの良さや課題について深く理解できるようにしたい。また、理解することに留まらず、世界の問題に対して、友達と考えを伝え合いながら、日本人として自分にできることについて考えることができるようにしたい。

5. 単元計画(全4時間)			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	音楽科 「リズムにのって世界の音楽を楽しもう」 ・ ザンビアの楽器を使って、アフリカの音楽のリズムを楽しむことを通して、世界の国々への興味・関心をもつ。	ジンバブエの曲「チャウエ チョーチェム チェロ」に合わせて、リズム伴奏をザンビアの太鼓やマラカスで行い、アフリカの音楽に触れる。	・楽器(太鼓やマラカス)
2	外国語科 「Unit4 Let's see the world.」 ・ ザンビアでできることを聞きとることができる。 ・ ザンビアについて知り、異文化を理解しようとすることができる。	現地で撮影した写真を用いて、食べたり、見たりできることについて英語で話したことを聞きとる。ザンビアのことを知り、思ったことや考えたことをワークシートに整理し、自分の思いを伝え合う。	・写真 (ザンビアの食べ物や観光地、動物など) ・チテンゲ ・シマスティック
3 本時	学級活動 「日本と他国の繋がり」 ・ 日本とザンビアの相違点について多面的・多角的に考えを伝え合うことができる。 ・ 世界には、多様な文化や生活、価値観があることを理解しようとするすることができる。	日本とザンビアの子供たちの学校や家庭での様子の違いについて書かれた「ちがいのちがい」のカードから、あってよい違いなのか、あってはいけない違いなのかについて考えを伝え合いながら判断する。どのような視点で判断したのか、各グループの結果を共有する。活動を通して、思ったことや考えたことをワークシートに整理し、自分の思いを伝え合う。	・写真 (ザンビアの子供たちの学校や家庭での様子)
4	道徳科 「世界の子供たちの夢(国際親善)」 ・ 世界の子供たちの夢の実現について考えることを通して、世界規模の問題が自分ともかかわりがあることに気付き、世界に目を向けつつ国際親善に努めようとする実践意欲を高める。	各国の子供たちの夢から、自分たちと同様に夢を持っていることや、ザンビアの子供たちの動画や写真から、同様に夢を抱いていても環境が異なることを知る。世界の子供たちが夢を叶えるために自分たちが今できることは何かを考える。	・動画 (ザンビアの子供たちが学校で夢について話している様子)

6. 本時の展開(3時間目)			
本時のねらい: 「ちがいのちがい」の活動を通して、日本とザンビアの共通点や相違点について多面的・多角的に考えを伝え合い、世界には多様な文化や生活、価値観があることを理解しようとする事ができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○ 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○ 前時の学習より、日本とザンビアの共通点や相違点について話し合い、本時の問いに繋げる。	
展開 (30分)	○ 本時のめあてをつかむ。 <u>日本との違いを私たちはどうすべき?</u> ○ ちがいのちがいカードを活用し、「あってよい違い」、「あってはいけない違い」「どちらとも言えない」の3つに分ける。	○ これまでのザンビアの学習を踏まえ、多面的・多角的に日本とザンビアの共通点や相違点について考え、話し合うことができるようにする。	・「ちがいのちがい」カード(日本とザンビアの学校と家庭の様子の違い)
まとめ (10分)	○ グループごとの結果を全体で共有する。	○ 他のグループの結果を聞くことにより、自分たちの考えを広げ、深められるようにする。	
	○ 本時のまとめをする。 <u>世界には、様々な文化や生活、考えがある。</u> <u>私たちは、それらを受け止め、その国の課題を世界の問題として向き合う必要がある。</u> ○ 本時の振り返りをする。	○ 日本とザンビアとの関わりから、世界へと視点を広げて考えられるようにする。	
		○ 本時の学習を振り返り、ワークシートに自分の思いを整理したり、友達と共有したりしてアウトプットすることができるようにする。	・ 振り返りワークシート

7. 本時の振り返り

単元を通して日本と同じところや違うところに注目してきた。児童は、本時までにはザンビアの食べ物や観光地、動物の写真から異文化理解を行ってきており、「ザンビアのイメージは、砂漠に住んでいたり、生活は貧しかったりして日本と全然違うと思っていたけれど、似ているところもあるのだ。」と驚いていたり、「ザンビアの食べ物や有名な布を知って、他に日本と違うところはないのか気になった。」ともっと知りたいと思いをもちたりした。本時では、前時までのザンビアの紹介とは異なり、ザンビアの課題となることも学校や子供たちの家庭生活の様子を中心に考えていったため、児童にとっては、他国について新たな視点での学びへと変わった。

導入では、前時までの振り返りを掲示物やこれまでのワークシートから行ったことで、本時も日本との違いについて知りたいという意欲付けに繋がった。

展開では、初めての「ちがいのちがいの活動であったが、班でいきなり考えるのではなく、学級全体で1枚のカードを考えることで、班での活動を全員が理解し、スムーズに活動へ入ることができた。さらに、話し合いのポイント「その人や国の環境、気持ちなど様々な角度から考える。」を示すことで、班での話し合いでは、自分たちとザンビアを比べたり、自分がザンビア人だったらどういう気持ちになるのかと立場を変えて考えたりしていた。気持ちの中で日本とザンビアを行き来して、多様な考えを共有することができた。他の班と考えを共有する際には、ワールドカフェのスタイルで行うことで、自分たちとは違う考えを興味深く友達の話を聞く姿が見られた。全体で共有の際には、自分たちのグループで出した結論と違って相手の考えを受け止め、自分たちとの相違点を比較し、様々な視点から考えを伝え合い、他国のことを自分たちと結びつけながら考えた。

終末では、「ちがいのちがいの活動を通して、めあてに対して「世界には、文化や生活が違うところ、似ているところがある。その違いを受け入れる。他の国を尊重する。お互いに認め合う。他の国の問題は、世界として自分たちにも関係しているから、日本という角度から考える」と、まとめて結び付けた。また、毎時に書いているワークシートでの振り返りでは、前時は日本と似ているところがあることに驚いたり、日本と違う文化を知って、さらにザンビアについて知りたいと興味をもったりした感想が多かったが、本時では、「自分達との違いを受け入れることは大切だと思うが、虫が留まっている肉が売られている写真を見て心配になった。しかし、ザンビアと日本で違ってよいものについても知ることができて嬉しい。」といった前時までとは違う形でザンビアという国を知ることができ、自分たちと比較しながら相手の国を尊重しながら、考えることができた。

本時を通して、児童は、ザンビアを遠い一つの国としてではなく、自分たちと同じ地球に住む仲間として自分たちと比べたり、自分たちの立場を置き換えたりしながら、様々な視点から意欲的に考えを伝え合う姿が見られた。また、ザンビアの課題を遠い国の問題として捉えて終わってしまうのではなく、「世界の問題として受け止める。」とまとめたため、次時の道徳の「世界の子どもたちの夢」の背景にある環境の課題について着目する視点をもつことに繋げることができた。

8. 学習方法及び外部との連携

学習者同士の交流を深めるために「ちがいのちがいの活動を取り入れた。日本とザンビアの違いを記したカードを、「あってよい違い」「あってはいけない違い」「悩む」の3つに、友達と考えを伝え合いながら判断する。この活動から、前時までの学習を生かして子供たちそれぞれが感じていたことを、様々な視点で話し合うことで、異文化理解に繋がった。

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学級の掲示にザンビアコーナーを設け、ザンビアで購入した物を自由に見たり触れたりする機会を設けた。また、学習の最後に、付箋に児童の気持ちを記したものを教室掲示に加え、自分たちで常に振り返りができるようにした。さらに、子供たちが、道徳科の学習で「世界の子供たちが夢を叶えるために自分たちが今できることは何かを考える」活動を通して、「ザンビアの良さや課題についてポスターを作ったり放送で呼びかけたりして、他国の現状を友達に知らせたい。」という考えが上がった。そこで、本校のモジュール学習の時間を活用して、学級でポスターやスライド、放送原稿作りに取り組み、各学年の掲示コーナーに掲示をした。

【自己評価】

10. 苦勞した点	児童はザンビアという国に限らず、世界には水や食料に困っている人々がいたり、学校に通うことが難しい環境があったりすることなど、本単元を進める以前に児童が理解している世界の問題点などに関する知識が児童によって差があった。事前にアンケート等で「どのぐらい世界について知っているのか。」や「海外についてどのぐらい興味をもっているのか。」など児童の実態を把握し、国際理解教育について学習する時間の確保が必要であった。また、単元を通して授業を進めていく上で、小学6年生にどこまでザンビアという国や人々の生活などを伝えていくかで悩んだ。見てきたもの、感じたこと全て伝えたいという思いはあったが、授業を行う上で何を伝えることが児童の学びに繋がるか、精選しながら授業を行っていった。しかし、本時で「ちがいのちがいの活動を行うまでにザンビアについて紹介した知識だけでは、児童の想像で話し合いを行ってしまうところもあり、本時の前に人々の生活の背景にある国の状況や問題を小学生にも分かるように学習する時間が必要であった。
11. 改善点	今回の授業実践を通して、児童の世界に対する知識が学習前に差があったため、「世界がもし100人の村だったら」などの学習活動を、年間を通して行い、まずは世界に目を向けることができるようにしたり、世界や世界から見た自分たちの状況について理解を深めさせたりすることができるようにしていきたい。また、授業時数が限られた中での実施であったため、児童のもっと知りたいという思いを広げたり深めたりすることが十分にできなかった。総合的な学習の時間の探求的な学習として位置づけ、児童の学びの時間を確保していきたい。さらに、本単元では、ザンビアの人々の学校の様子や家庭生活、価値観、文化などを伝えて考えることを中心としたが、今後実践する場合には、ザンビアに訪問したからこそ知った水の問題やゴミ山の現状をダイヤモンドランキングや役割演技の活動などを通して世界の問題を自分事として考える機会を設け、より他国への学びを深めることができるようにしていきたい。
12. 成果が出た点	単元を一貫して、「ちがいのちがいの活動」を取り入れて学習を行っていった。導入として日本の楽器と異なるザンビアの楽器に触れたり他国の音楽に触れたりすることで、海外への興味・関心を高めることができた。その後の外国語科や本校のモジュールの学習の時間に行ったザンビアを紹介する学習においても「日本とどこが同じだろう。」「同じところを見つけられたから、違うところも知りたい。」と意欲的に学習に取り組む姿が見られた。そのため本時で初めて「ちがいのちがいの活動」に取り組んだが、児童は躊躇することな

く、多面的・多角的に話し合い活動に取り組むことができた。また、本単元の学習を行うまでに、道徳科の学習において、「相互理解」「公平」「公共の精神」の価値項目の学習を行ってきた。その学習を受けて本単元を行ったため、他国と日本の違いを悪い意味で捉えることなく受け入れたり、問題を他人事とせずに向き合ったりすることに繋げることができた。さらに、単元計画の時点では、4次目の道徳科の学習で「共に未来を歩む世界の人のために今の自分たちに何ができるか考えることができる。」を単元のねらいとして設定していたが、児童から「ザンビアの良さや課題についてポスターを作ったり放送で呼びかけたりして、他国の現状を友達に知らせたい。」と声が上がったため、その後の実践する活動まで取り入れ、児童の学びを深めることに繋げることができた。児童は、実践してみて、世界の他の国のために自分たちにできることをこれからもしていきたいと思いをもちたり、もっと他の国のことも知りたいと感じたりし、世界の目を向ける一歩となったようだ。

13. 学びの軌跡
(児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)

① 2時目のワークシート

2. どうしてその気持ちになったのか、感じたことや考えたことについて書きましょう。

・日本と違って、サルやゾウが普通に歩いている、すごい高い木があたり、つやつやして、明るい色の布があったりして、面白かった。

・お金の表面に、ライオンが描かれていて、つやつやして、面白かった。

見たことがない物や真(ま)ぼろで面白かった。

2. どうしてその気持ちになったのか、感じたことや考えたことについて書きましょう。

ゆらゆらした食べ物以外の食べ物を知りたい。動物のこうスボットも知りたい。教科書(ほか)まじりか書を見てみたい。動物のお金(お)をみてみたい。②執(し)りなたまを見て、勇(ゆう)気(き)をもらって、くみとれた。他にも知りたい!! 前向(まへむ)きの気持ち、良いですね。

② 本時のワークシート

2. どうしてその気持ちになったのか、感じたことや考えたことについて書きましょう。

・日本では、お金の一本入(いっぺんいり)っていただけで食べられなくなるのに、ザンビアは、ハックにも話(わ)められておらが、虫(むし)と絡(か)もっている状態(じょうたい)で売(う)っていて、驚(おどろ)きました。

・ザンビアにも、あんなに思(おも)うこともあれば、あんなに思(おも)わないこともあ、たけれど、ザンビアのことを受け入れることが大切(たいせつ)だと思(おも)いました。ザンビアに行(い)くことができることを喜(よろこ)ぶ。

2. どうしてその気持ちになったのか、感じたことや考えたことについて書きましょう。

自分(自分)のちがいを受け入れることは大切(たいせつ)だが、虫(むし)が留(とど)まると、それが売(う)れたい(う)ることで、衛生面(せいせいめん)を考えると心配(しんぱい)でも、自分(自分)とちがうところ(ところ)が、とても良(よ)い(よ)いものがある(あ)るらしい。心配(しんぱい)はいいね、知らないでよかったね。

③ 4時目のワークシート

☆ 「世界みんなが共に」について
 今までのこと 友達の考えで聞いたこと
 分かったこと これからのこと
 を道徳日記を書きましょう。

今までは、世界のことをあまり知らなくて、日本と同じことはあまりないかな？ かな、と思っていたけれど、国が違っても、夢をかなえたいという気持ちや夢に向か、て努力しているというところは同じだと分かりました。これからは、世界のみんな、夢をかなえよう。環境に合わせるように、まずは、まわりの人達に、世界のことを教えたいです。

世界のみんなと仲良くしたいですね。

☆ 「世界みんなが共に」について
 今までのこと 友達の考えで聞いたこと
 分かったこと これからのこと
 を道徳日記を書きましょう。

今まで「ザンビア」のことは自分たちから知っているからそんなにみんなに共感しなくて「1P」と思っていた。今日の学習で「世界はみんなが共に」ということが分かった。これから世界の現況はこうなっていくようにと何でみんなの友達と話す話題にしてみた。

話題にするのから始めるのいいですね。

14. 授業者による自由記述

私は、学生時代に国際理解教育を学び、これまでの海外へのスタディーボランティアや短期留学といった経験を生かし、自分なりの国際理解教育を行ってきた。しかし、本研修に参加することで国際理解教育の意義や意味を再認識したり、ザンビアを訪問したからこそ目の前の児童に何を教えることができるのか考えたりすることができ、自分自身大きな学びの機会を与えて頂いた。自分自身の力でアフリカ大陸、そしてザンビアを訪問するかと問われると難しい。今回、このような機会を頂けたからこそその出会いや学びが多くあった。そして、その経験を生かして児童に授業ができたこと、児童にとって少しでも世界と繋がるきっかけ作りとなったことが何より私の財産となった。今後児童が成長していく過程の中でこの学びを通して世界へ興味をもったり、世界へ羽ばたくきっかけとなったりしたことと願っている。また、本單元だけでは伝えきれない学びや思いもあるため、次年度以降もここでの学びを教材として、児童に指導できるように開発教育に力を入れて、児童に世界を知るきっかけとなる種まきをしていきたい。さらに、本單元を行うにあたり、児童だけではなく、国際理解教育を難しいと感じている教員も多くいるという現状を知った。自分の経験を伝えたり、授業を実践したりすることで、他の先生方へも国際理解教育を知ってもらう機会にできるよう、今後も授業研究を行っていく。

【教室に展示したザンビアグッズ】



【2時間目（外国語）のまとめ】

ビクトリアの滝

Let's go to Zambia.

You can see Victoria Falls.

食バ物(マアムタ)

カズングラ橋

You can eat Nshima and Furitter.

You can visit the Kazungula Bridge.

野生の動物

チテンゲ

You can see animals.

You can buy Chitenje.

【ちがいのちがいカード（7枚）】



日本は、スーパーなどで食べ物を売っている。
ザンビアは、路上で虫が留まっている状態で食べ物が売っている。



日本の家は、コンクリートの壁でできている。
ザンビアの家は、段ボールの壁でできている。



日本は、日本語で授業を受ける。
ザンビアは、英語で授業を受ける。



日本は、サッカーボールでサッカーをする。
ザンビアは、ごみを丸めてサッカーをする。



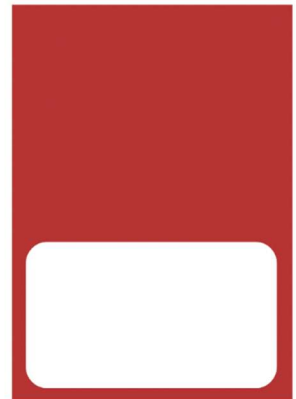
日本は、30分かけて学校へ通う。
ザンビアは、3時間かけて学校へ通う。



日本人は、はしを使って食べる。
ザンビア人は、手を使って食べる。



日本は、タブレットでタイピングの学習をする。
ザンビアは、手作りのキーボードとマウスでタイピングの学習をする。



【本時（学級活動）の板書】

め 日本との違いを私たちが、どうすべきか。

① 1枚ずつみんなで話す。
一人の考え×

② その人や国の環境、気持ちなど様々な角度から考える。

ま 世界には、文化や生活が違うところ、似ているところがある。日本にいる違を受け入れ、尊重する。認め合う。自分たちにも関係しているから。

悩む

日本は、日本語で授業を受ける。

日本は、30分かけて学校へ通う。

日本は、スーパーなどで食べ物を売っている。

日本人は、はしを使って食べる。

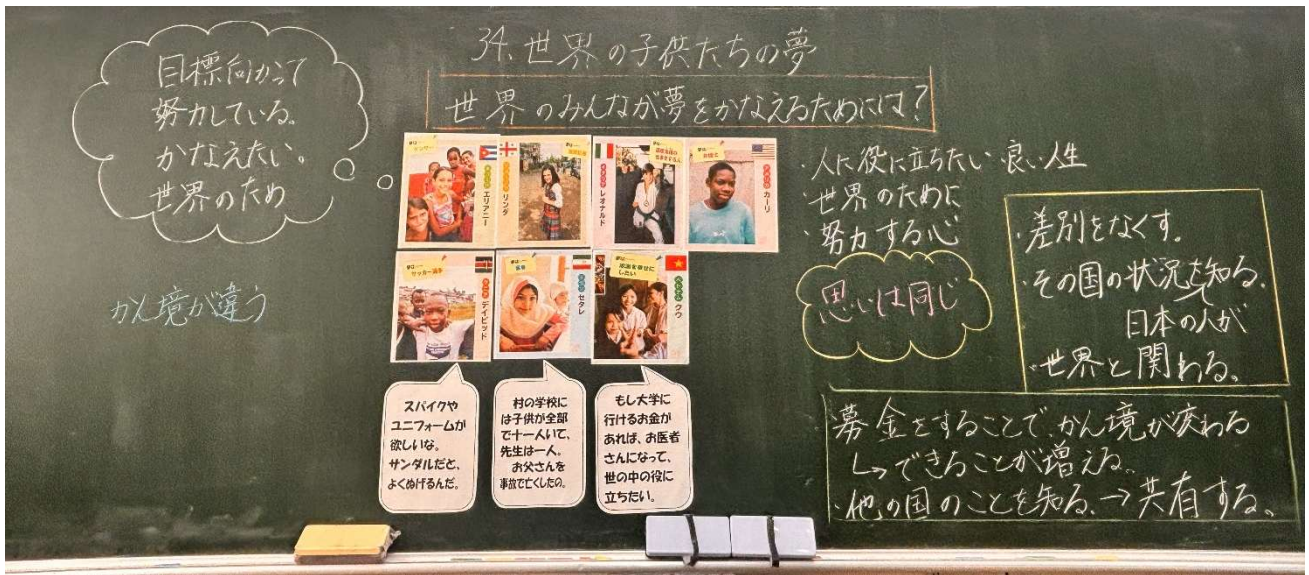
日本の家は、コンクリートの壁でできている。

日本は、サッカーボールでサッカーをする。

あつてよい

あつてはいけない

【4時目（道徳）の板書】



【児童の作成したスライドやポスター】

